

(別紙1)

総括研究報告書

課題番号	2022B-6	
研究開発課題名	ウイルス量と免疫細胞の活性化及びサイトカインの測定を基にした小児心臓移植後免疫抑制療法の標準化	
分類*	<input type="checkbox"/> ① <input checked="" type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input checked="" type="checkbox"/> ⑤ <input checked="" type="checkbox"/> ⑥ <input type="checkbox"/> ⑦	
区分	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> S	
主任研究者	所属	小児内科系専門診療部
	役職	統括部長
	氏名	小野 博
実施期間	2023年 4月 1日 ~ 2024年 3月 31日	

※分類は下記①～⑦より選択

- ① 日本の成育分野の疾患の研究の基盤となる研究
- ② 診断、治療及び予防法の開発に関する研究
- ③ 発症機序や病態の解明等を行う研究
- ④ 診断や治療のための基準の開発等に関する研究
- ⑤ 患児・者のQOL向上に結びつく研究
- ⑥ 研究的視点や技術をもつ医療従事者を育てるための研究
(プロトコル作成のフェージビリティ研究)
- ⑦ 政策提言に結びつく研究

成果の概要

(研究実績および成果)

小児心臓移植後症例の Epstein-Barr ウイルス (EBV) 量の測定および末梢血単核球の活性を測定および一般的な生化学検査患者の薬剤の血中濃度の測定、拒絶反応の評価のための血液生化学的検査、心電図、心エコー、心臓カテーテル検査、心筋生検など、そして PTLD の評価のため、血液生化学的検査、EBV のウイルス量の測定や末梢血単核球などの免疫細胞の活性を測定しており、そのデータの蓄積を行った。そして 2023 年 8 月 11 日に国立成育医療研究センター倫理委員会の承認を得て、11 名から同意書を取得し、4 名 5 検体でサイトカインの測定を行った。現状でサイトカインは一定の動向を示していない。今後はデータを蓄積し、病態とサイトカインとの関連を調査する。

症例	年齢	移植後期間	基礎疾患	免疫抑制薬	TAC (ng/mL)	BNP (pg/mL)	全血 EBV (copy/μg DNA)	拒絶	
								急性細胞性拒絶 ISHLT 2004	抗体関連型拒絶 ISHLT 2013
A	8	7	DCM	TAC, MMF, EVR	4.7	112.3	260	GRADE 1R mild	0
B	9	5	KD	TAC, MMF, EVR	6.9	53.0	740	GRADE 0R	0
C	5	1	DCM	TAC, EVR	2.8	598.9	880	GRADE 1R mild	0

DCM: Dilated cardiomyopathy, KD: Kawasaki disease, TAC: Tacrolimus, EVL: Everolimus, MMF: Mycophenolate mofetil ISHLT: International Society for Heart and Lung Transplantation